シリーズ
人権尊重スキルを磨く「会議のファシリテーション講座」②

みんなの意見が生かされる会議の作り方！

ちょんせいこさん（人まちファシリテーション工房）

大分県人権・同和対策課のチャレンジ

飛行機は大の苦手なのに、私が会議の進行役として向かう先は大分県の「人権啓発リーダーネットワーク会議」です。大分県では県民の人権意識の向上を目的に、視聴覚教材のビデオを作成しています。

せっかく作るのだから、有効活用したい。そのためには、どうすれば良いのか。いろいろと考えた人権・同和対策課のみなさんは、脚本作成のプロセスに、「できあがったビデオ」を活用する市町村の職員や県が養成する人権ファシリテーターの意見を取り入れることにしました。

日頃から人権課題に取り組み、研修を企画、実施する立場にある人たちの意見が、より具体的なニーズに合った活用しやすい教材を作成すると考えたのです。また会議を通じて、県・市町村の職員と人権ファシリテーターの間につながりを生み出すこともできます。

2006（平成18）年度は職員10人と人権ファシリテーター7人が4回にわたって会議を持ちました。私はファシリテーションを効かせながら、この会議を進行します。

会議を生産的にするための工夫

ところで、私の勘違いかも知れませんが、よくある会議はこんな感じです。部屋にはロの字型に机が配置され、前の人との距離は2メートル以上。豊富な経験と強い思いを持つ人に発言が偏りがちで、全員が発言することはあんまりない。また発言しても、意見が噛みあわないまま、言いっぱなしになったり、事務局が持ち帰るだけ。時には、責任追及論が浮上して、場が凍りつき、その対応にのみ追われることもあります。

貴重な時間を費やしているのに、これではもったいない。参加者一人ひとりが日頃から感じていることを気軽に出し、生かしあいながら、合意形成ができる、具体案を生産できる会議にしたい。ファシリテーターの私は、そのためにいくつかの工夫を凝らします。

その1　良好なコミュニケーションと好意的関心の態度を育む

会議参加者の中に、お互いの意見を聴きあう態度を醸成します。私たちの中には、たくさんの宝のような意見が詰まっています。例えば「わからない」という意見も、問題を焦点化させ、共通理解を図るために大切な役割を持ちます。お互いの意見を聴きあい、学びあえる関係づくりを進めるために、会議前には、コミュニケーショントレーニングやアイスブレイクをしておくことがお勧めです。

その2　ゴールを文字で共有してから会議を始める

あたりまえすぎて案外忘れられていますが、この会議は何のためにあるのか。私たちの議論は、何に貢献するのかを、会議冒頭に文字で共有してから始めることが肝心です。ホワイトボードに書いておけば、議論が紛糾した時も、立ち返ることができます。立場が異なり、利害が対立する人どうしも、共通のゴールがあるから、会議で共に歩むことができるのです。

その3　会場デザインを工夫する

日本の会議はロの字型でなければならない。そんな法律があるわけでもないのに、日本の会議は驚くほどロの字型です。これでは好意的な関心の態度で生産的な議論をするのは難しい。会場デザインを工夫しましょう。会議には必ずホワイトボードを持ち込みます。ファシリテーターは、参加者の声をホワイトボードに視覚化、蓄積しながら会議を進めます。参加者はホワイトボードを見ながら参加します。具体的な方法は、次号で説明します。

その4　記憶に頼らず、記録を共有する

1ヶ月前の夕食を思い出せないように、1ヵ月前の会議内容は忘れます。せっかくの議論も時間の経過と共に忘れられては積み重なりません。また人によって印象は様々ですから、記憶に頼ると誤解も発生します。やめましょう。ホワイトボードを活用した会議なら、会議終了後にパチリとカメラで写せば、議論は一目瞭然。これを素材に記録を作成し、参加者で共有。議論を積み重ねます。

協働を支える議論は情報共有から

ちょっとした工夫をするだけでも、議論は驚くほど生産的になります。大分県の会議では全4回を通じて、職員と人権ファシリテーターがゴールを常に共有しながら、多くの意見を出し合いました。

「人権ファシリテーターの方々は、NPOや団体で活躍されていて、目的も意見もとても明確。一方で行政は、公平性や公共性に考慮してバランス良くいかなければならない。会議では、双方がエピソードを交えながら、互いの良さを出しあって建設的な意見が出されています」（啓発班主幹・松下清高さん）「ファシリテーションが効いた会議は、常に何を議論しているのかが参加者に見えています。職員、人権ファシリテーターの経験が反映された議論になっていると思います」（啓発班副主幹・河野洋子さん）。

ところが、せっかく生産的な議論ができたのに、昨年度は、ビデオの制作会社に議論の内容を伝え、共有する作業がかなり難航し、大変な苦労が伴ってしまいました。というわけで、2007（平成19）年度の会議には、制作会社のディレクターも加わって、職員と人権ファシリテーターと協働で、新しいビデオ製作に向けた議論を進行中です。会議に誰が参加するのか、キャストを工夫することも、とても大切なのです。

参考文献：「人やまちが元気になるファシリテーター入門講座～17日で学ぶスキルとマインド」（著者：ちょんせいこ／発行：解放出版社）